

Yoshikazu Hoshimi/星見義一

星見氏は、キリスト教科学実践士で、東京近郊の川崎に住んでいる。

老後を、医療費ゼロで

Senior years, with zero medical spending

後期高齢者医療制度という法律が日本の国会を通り、2008年4月より施行された。日本では、75才以上の人口が増加し、それまでの保険では、高騰する医療費を国が補てんすることが困難になったので、この新しい制度が発足したのである。

しかし、これは、年金で生活費をまかなっている高齢者に、財政的に重い負担を強いることとなり、国民の間に不満が広がっている。その結果、これが大きな政治問題となっている。

この問題の原因は、医療費の高騰にある。医療費がもっと安くなれば、高齢者たちは年金の範囲内でそれを支払い、安心して生活することができる。では、医療費を安くすることができるのか？

それは可能である、と筆者は、高齢者の皆さんにお答えしたい。

筆者は大正の末の出生であるので、この後期高齢者のカテゴリーに入る者だが、**キリスト教科学**のお陰で医療費ゼロの生活を送っている。筆者は、23才の時に一人のアメリカ人の男性と親しくなり、彼から『**科学と健康**一付聖書の鍵』という本をプレゼントされた。その頃の日本は戦後で、食糧事情が貧しく、粗悪な食物が多かった。筆者は幼少の頃から虚弱な体質であったため、胃腸病になり、医者の治療を受けたが、医者から回復不可能と宣告された。

筆者は死にたくなかった。わらをも掴む思いで、このメリー・ベーカー・エディ著『**科学と健康**』という本を読んだ。その本には、

「病気は無い」(p. 421)と書いてあった。「自分がこんなに病気で苦しんでいるのに、どうして病気は無いと言えるのだろうか？」と筆者は思った。どうか、この謎を解いてください、と必死の思いで**神**に祈った。

すると、この本の14ページにある次の言葉が筆者の注意を引いた：「物質的な生活の信念や夢とは全く別に存在するのが、神性の**生命**であり... この理解が誤りを追い出し、病人を癒す...」。

この言葉を読んだとき、筆者は、自分の頭の上にかかっていた雲が切れて、光がぱっと射し込んで来たように感じた。「そうだ！

僕は、この弱い肉体ではなく、たとえ目には見えなくとも、**神**が造ってくださった完全に健康な体を持っているのだ！」

このことが起こったのは朝の10時頃であった。そして、筆者は、手のひらを返したように、完全に回復した。以来、何十年もの間、筆者は、どんな病気に直面したときも、医者の治療を求めず、また薬も飲まず、ただ**キリスト教科学**が教える祈りのみに頼り、常に完全な癒しを受けてきた。

いろいろな病気を**キリスト教科学**で癒されたが、その一つの例を紹介すると、筆者は40代の時にくびと右肩にひどい痛みを感じたことがあった。自分の祈りでは効果がなかったので、オーストラリアにいる、キリスト教科学実践士に連絡して治療をお願いした。その実践士から、次の言葉を受け取った：「人間の心から誤りを抜き取る方法は、**愛**の満ち潮に乗って、真理を注ぎ込むことで

ある」(同書、p. 201)。この言葉を勉強していると、**神**の愛、**彼**の愛が満ち潮に乗って僕のところに押し寄せてくるのを感じた。更に勉強していると、海の水が海岸に打ち寄せるように、絶え間なく、ますます大きな波となって、しかも無限の源泉から、岸に寄せるように、神性の**愛**の光が、絶え間なく、ますます大きくなって、僕のところに押し寄せてくるのを感じ、本当に**愛**に抱かれているのを感じた。くびと肩の痛みは、すぐに消えた。

医療費ゼロの生活は、誰でも、その気になれば、今すぐに、始めることができる。聖書の「ヨハネによる福音書」に、次のように書いてある：「**神**はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」(3:16)。

筆者は、この大いなる**キリスト教科学**の祝福を受けた。そして、キリスト教の**神**が、この東洋の島国、日本に住む人々にも、素晴らしい恵みを与えてくださることに対し、心から感謝している。筆者は、更に多くの人々が筆者と同じように、医療費ゼロの、健康で幸福な生活を送られるよう、心から願っている。✿